

一般質問の質問者順番と質問事項

(平成30年第2回 定例会)

質問順位	10 12番議員 松石信男
質問事項1	ひとり親世帯に対する支援について
質問の相手	町長
質問の要旨	<p>今年3月、「基山町子ども生活実態調査」の結果が発表された。それによると、基山町では、ひとり親世帯が全世帯に占める割合は全国平均を上回っている。また、ひとり親家庭の状況は、経済的なゆとりが「あまりない」、「まったくない」世帯が74.3%、母子世帯の雇用は非正規が半分を占め、子どもの進学状況も低く、必要なときに頼れる相手が少なく、近所との付き合いがない家庭が半分近くとなっており、子育てで苦勞し孤立している実態が浮びあがっている。基山っ子未来応援のための施策の拡充、「安心して産み育てられる基山町」を目指して、特に、問題が集中しているひとり親世帯に対する支援の拡充が必要と考える。</p>
具体的な質問	<p>(1) 今回の「基山町子ども生活実態調査」では、子どもの乳幼児期の実態については、どのように分析されているのか</p> <p>(2) 子どもの貧困対策検討チームの結成状況について</p> <p>(3) 未婚のひとり親家庭への寡婦（夫）控除のみなし適用について ア 児童扶養手当を受けている未婚の母子世帯の件数は イ 町では、未婚のひとり親に対するのみなし適用事業は何があるのか ウ みなし適用事業の周知は、どのようにしているのか エ 今年度から、新たに寡婦（夫）控除のみなし適用になる25の事業とは何か</p>

一般質問の質問者順番と質問事項

(平成30年第2回 定例会)

質問順位	10 12番議員 松石信男
質問事項2	国保税の子どもの均等割減免で子育て支援を
質問の相手	町長
質問の要旨	<p>国保税の負担が重いとの町民の声がある。国保税は、所得割、均等割、平均割で構成されている。社会保険の場合は、収入に応じた保険料を労働者と会社で折半し、扶養家族が何人になっても保険料は変わらない。一方、国保には均等割があるため、世帯人数が多ければ多いほど保険料が高くなる仕組みとなっている。基山町は子育てに力を入れているが、子どもの数が増えれば増えるほど国保税が上がっていくこの子育てに逆行する仕組みの見直しのため、子どもの均等割の減免を行い、子育て支援を行うことで少子化対策につながると考える。</p>
具体的な質問	<p>(1) 18歳未満の子ども一人に係る国保税の均等割額はいくらか</p> <p>(2) 均等割という課税方法の根拠は何か。また、他の保険制度にはあるのか</p> <p>(3) 子どもが増えれば増えるほど負担が重くなる部分(均等割)を、公費によって負担軽減を図ってしっかり応援することは、少子化対策として実効性が高いと考えるがどうか</p>